7月号 増刊 通巻104号 1997年7月10日発行
FRUiTS
7
1997
フルーツ
STREET 7月号増刊号
500yen
2047120
interview
原宿フリースタイル

LAFORET
JULIETTE LEWIS
MOVIE STAR

原宿フリースタイル

カーデガン：ヴィヴィアン ウェストウッド
スカート：古着
くつ：大阪で買った
バック：帯で作りました。
ファッションのポイント：春用マフラー（帯）
美容室：2030
18才、専門学校生

ジャケット：もらいもの
スカート：ヒステリックグラマー
ファッションのポイント：髪の毛につけてる毛糸
美容室：BOY
16才、高校生

シャツ：20471120
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：20471120
ファッションのポイント：2人で20471120
美容室：友達
18才、専門学校
？髪はどうやって染めたの？
もともと色を抜いてあるんですけど、その上に黒のヘアーマニキュアをしていて、今日はベネトンのカラームースでブルーに色を付けています。

シャツ：20471120
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：ジャックパーセル
バッグ：20471120
ファッションのポイント：2人でおそろ
美容室：グラマー
18才、専門学校

ジャケット：梅ヶ丘のテーラーでオーダーしたもの
シャツ：古着（シカゴ）
パンツ：自作
シューズ：ラフォーレのセスで
ファッションのポイント：水兵さん
美容室：ナイーヴ
17才、高校生

ジャケット：プーラフリーム
セーター：古着
スカート：エンジェル
シューズ：コージ クガ
バック：エンジェル
ファッションのポイント：ムラサキ
美容室：GIRL LOVES BOY
19才　アルバイト

？エンジェルって？
大阪のブランドで、大阪まで買いに行ったんです。

ジャケット：デコ ミューラー
シャツ：デコ ミューラー
スカート：デコ ミューラー
ファッションのポイント：スカート
美容室：近所の理容室　Dab
26才

シャツ：20471120
オーバーオール：クリストファー ネメス
シューズ：BELLY BUTTON
ファッションのポイント：友達に借りたオーバーオール
美容室：MINX
18才、専門学校生

シャツ：スタイル
パンツ：アルタで買って改造した
シューズ：東十条で
アクセサリー：自作
ファッションのポイント：武士なところ
美容室：萩原宗美容室
22才、アーティスト

シャツ：古着
パンツ：下北沢で買った
シューズ：ニューバランス
バック：下北沢で買った
ファッションのポイント：髪型
美容室：萩原宗美容室
20才、自称パフォーマー

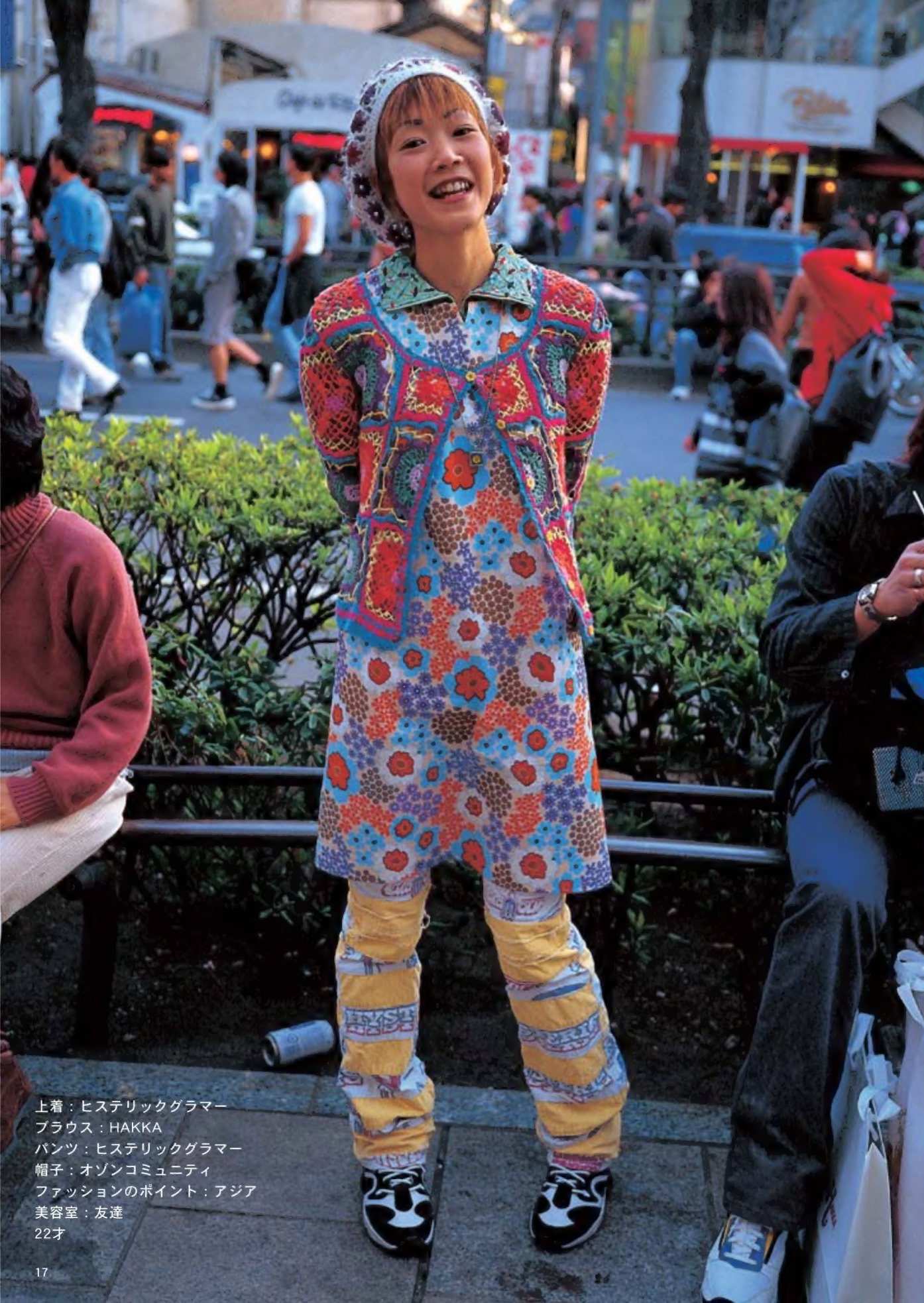
シャツ：ビューティービースト
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：ビューティービースト
アクセサリー：ジョン ガリアーノ
美容室：自分でぼうずにした。
18才、専門学校

シャツ：ラッドミュージシャン
シューズ：コンバース オールスター
ファッションのポイント：シワシワのナイロンシャツ
美容室：SHIMA
20才、美容師

スカート：古着+クーデター
シューズ：BA-TSU
バック：CUCCIA
ファッションのポイント：スカート
美容室：SHIMA銀座店
18才、専門学校

ジャンパー：Fairy
パンツ：クリストファー ネメス
バック：自分で改造した
リボン：20471120
ファッションのポイント：20471120のリボン
美容室：VIVACE
16才、高校生

バック：オゾン コミュニティ
ポイント：フードのしましまと靴下のしましま
美容室：VIVACE
17才、高校生

上着：和服
シャツ：マサキマツシマ
パンツ：原宿で買って自分でカット
メガネ：1000円
バック：帯で自作
ファッションのポイント：ハカマくん
美容室：MINX
20才、美容師

上着：ヒステリックグラマー
ブラウス：HAKKA
パンツ：ヒステリックグラマー
帽子：オゾンコミュニティ
ファッションのポイント：アジア
美容室：友達
22才

シャツ：古着（コム デ ギャルソン）
パンツ：古着（コム デ ギャルソン）
ファッションのポイント：長いシャツ
美容室：友人
19才、美容師見習い

シャツ：ミルクボーイ
パンツ：自作
ファッションのポイント：日本文化と英国のリミックス
美容室：お友達
18才、専門学校
？髪をは何で固めてるの？：UNO

シャツ：O.D. O.B（ミルクボーイ）
パンツ：ミルクボーイ
シューズ：ミルクボーイ
バッグ：自作
ファッションのポイント：カワイイパンクス
美容室：友達
21才、フリーター

カーデガン：オゾンコミュニティ
ワンピース：クラッチ
バック：ヒステリックグラマー
ファッションのポイント：オカッパ
美容室：VIVACE
16才、高校生

ファッションのポイント：涼しいこと
美容室：SHIMA
21才、歯科衛生士

シューズ：カンペール
リストバンド：自作
美容室：SHIMA
20才、フリーター

シャツ：ユナイテッド アローズで
パンツ：チチカカ
美容室：友人
21才、フリーター

シャツ：ミルクボーイ
パンツ：ミルクボーイ
シューズ：ミルクボーイ
ファッションのポイント：[illegible]な腕
美容室：GIRL LOVES BOY
20才、フリーター

ブラウス：マサキ マツシマ
スカート：コム デ ギャルソン
シューズ：下駄屋で買って色をぬった
ファッションのポイント：下駄以外すべて白！
美容室：ミラクル コントロール
19才、専門学校

T-シャツ：ミラクルウーマン
パンツ：クリストファー ネメス
ファッションのポイント：和物
美容室：VIVACE
18才　大学生

パンツ：ヒステリックグラマー
シューズ：ナイキ
バッグ：オゾンコミュニティー
美容室：
21才

パンツ：J.P.ゴルチエ
くつ：BELLY BUTTON（自分でペイント）
ファッションのポイン
美容室：AQUA

上着：四天王寺朝市の古着
シャツ：パリのゲーリーソルドの古着
パンツ：CONDIRE
シューズ：パトリックコックス

ジャケット：ゲーリーソルド
Tシャツ：ヘインズ
パンツ：20471120
シューズ：レッド・ウイング
ファッションのポイント：ダイナマイト
美容室：林さん
29才、デザイナー

interview

20471120 LICA

デザイナー 中川正博
MASAHIRO NAKAGAWA

中川正博の絵

最初のコレクション Fany Zoo '92.03

HANS BELLMER COLLECTION '92.11

RED STRIPES ARMY '93.11

阿倍野店の店内

One Piece for All Piece All Piece for One Piece '93.11

最初の東コレ SLIP DOWN '94.11

FR 20471120の意味はなんですか。

中川 2047年11月20日に何かが起こるっていう、予言みたいな意味です。ブランド名を決めるときに、何か記号ならよかったんです。自分の名前とかブランド名とかは、自分のなかではダサイと思ってて。絵のようなマークのような、記号化ができたら何でもよかったんです。それを見て人がなんやろって感じたり考えたり、そうやって色んなことが進化するんちゃうかなって。とりあえず記号化しようっていうときに、ベーシックな数字ってかっこいいなってリカちゃんと話してて、日付にしようかっていうことになって。自分たちも未来を夢見てがんばれるし、お客さんもいっしょにおもしろがってくれるかなって。安易なんですけど。ぼくらがちょうど80才になるんですよ、そこからそれぞれ違うことをって、長生きする予定なんですよ。

FR トゥオーフォーセブンワンワントゥオーって読むんですよね。この前まではトライヴェンティって読むことになってましたよね。

中川 数字だけにしたかったんですけど、商標の登録の問題で、トライヴェンティという移行期間が必要だったんです。

FR トライヴェンティの意味は？

中川 イタリア語で、20までの間っていう意味で。音の響きがいいからそれでいっとこかって。英語のBETWEENの意味もあるんです。

FR 最初は違う名前だったんですよね。

中川 ベリッシマです。

FR それは何年前ですか。

中川 1992年で、5、6年前です。

FR そのスタートの時の話を聞かせてもらえますか。

中川 リカちゃんがあるメーカーに勤めてて、デザイナーをやってたんですよ。それをやりながら会社には内緒で、自分で洋服を作ってたんです。

リカ 自分でパターン引いて、縫って。1つのお店に卸してたんですよ。そっちがすごく売れてきたので、もう会社にいなくてもだいじょうぶって思ってたところに中川と知り合ったんです。中川はそのころ絵を描いてて、パルコでやった展覧会の中の中川の絵を見て、これすごいわって思って。そうしたら学校が同じだったんですよ。学科が違ってたので、そのころはあまりしゃべらなかったんですけど。

FR 学校って？

中川 創造社っていうデザインの専門学校で、僕はグラフィックで、リカちゃんはアパレル科で。

リカ 普通のモード学校と違って、人数も少なくて、デザイン重視でグラフィックとかもやるんです。

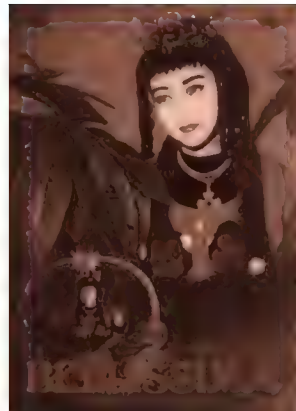
中川 スタッフの登（のぼる）もそこの後輩で、大阪のショップのドアや東京のショップの椅子とかを作ってくれた宜本も同じ学校なんですよ。

FR でもそれだけじゃ知り合えないですよね。

リカ 共通の友達がいて、おもしろいとかって話をしてて。

中川 大阪のインディーズがみんな卸してる阪急ファイブの「あしたの箱」っていうお店があって、そこにリカちゃんも卸してて。

リカ そこの人がみんなで仲良くしたらいいよって鍋会をしてみんなを集めたんですよ。はじめてそこに卸してる人達に会ったんですけど、そこに山下くん（Beauty：Beast）もいたりして。そのときにみんなで何かやろうって、なにかビジュアルで表現したいっていうことになったんですよ。そのころみんな全然お金がなかったんですけど、ちょっとずつ出し合って、印刷会社の人にも分割払にしてもらっ

たりして、Ａ４サイズのポスター状の雑誌みたいなものを作ったんですよ。
中川　２号でぽしゃったんですけどね。それが２人でやりだしたきっかけで、リカちゃんからいっしょに洋服をやらないかっていう話があって。デザインとか適当にやりだして。

共同で作った雑誌とベリッシマのページ

FR　中川さんは洋服を全然やってなかったんですよね、それまでは。
中川　全然やってなかったです。最初は適当にやって、簡単やんけとか言って。でも全然できてなかったですよ。
リカ　私は学校のほかにパターンの先生に習いにいったり、通信教育を受けたりして突き詰めてたんですよ。そのころトワールとかで作れる服とかをやってたんですけど、中川が急にね**「こんなんええやん」って描いてきたのが、「ぜったいこんなん洋服にでけへん」っていうようなものだったんですよ。**最初はぜったいこんなのは無理って思ってたんですけど、見てるうちに洋服とは違う発想がすごくあっておもしろいって思うようになって。洋服の人って発想が洋服になってしまうじゃないですか。なんかガーって行ってしまうような気がして。いっしょにやったらおもしろいなと思って、いっしょにやったんです。
FR　他の人とやるのって普通いやじゃないですか？
リカ　いえ全然いやじゃなかったです。私は新しい刺激になるものがすごく好きなんですよ。絵やインテリアでも刺激になると自分もワーって燃えるんで。そのころ回りにそういう人がいなかったので、自分と全く違うものを持っている人に初めて出会ったと思ったんです。自分もすごく違う考え方をしたりとか、活性化されて、全然いやじゃなかった。
FR　それもすごいですよね。中川さんの才能でもあるかもしれない。才能がある人でもなんか喰われちゃうように感じる場合があるじゃないですか。中川さんの場合はいっしょにできそうな気がする人ですよね。それがベリッシマの最初ですね。
中川　それからどうしたんやったっけ？
リカ　学校で気に入ってくれてた先生から急に電話があって、ワールド・ファッション・トレード・フェアっていう大きなショーがあるんですけど、それに参加しないかって言われたんですよ。
中川　なんか作ったな、手作りで。
リカ　動物ショーみたいなのをしようって。ファーを使って。
中川　そしたらそれを見ていた電気会社の人から、イベント用の衣装を作ってくれないかっていう話が来たんですよ。イベントのブースでのミニファッションショー用の衣装で１５体程作ったんですけど。それが僕らの当時にしては大きなギャラで、３００万円程で。服もこちらの所有でよくって、今でも大阪のオフィスのどこかにあるはずです。
リカ　２人でやりはじめてベリッシマっていう名前を決めたらすぐにワールド・ファッション・トレード・フェアの話がきて。キャリアもなにもないから無理ですよって言ったんですけど、いいから出なさいって言われて。他の人はすごくキャリアのある人達ばかりだったんですよ。そしたらそのすぐ後にイベント用の衣装の電話があって、**３００万円のギャラっていうんでキャーって喜んだんですよ。**
中川　もうタバコに火を付けてすぐぽいぽい捨ててましたよ。最後には５本くらいまとめて火を付けて。もう金持ちやからなって、ギャグ言って。それで自分達のお金ができたんです。そのとき山下くんが本町でやっていて、近くにおいでよって言うので、ほな行くわって。それで山下くんの近くで**ボロッボロの壊れかけの、かっこ良く言えば「傷だらけの天使」みたいな、**デリカテッセンの様な階段の裏のコンクリートのビルで、昭和初期ぐらいにできたビルの部屋を借りたんです。家主さんはすっごいええ人なんですけどね。
リカ　隠し階段みたいなのを登った上の四角い部屋を借りたんですよ。
中川　保証金とかいらなくて、月４万円で。本町のド真中。それまでどこに行っても断られてたんですよ。でも、そこの家主さんはすっごい良い人で。
リカ　もうすぐ壊すからそれまでいいよって、がんばってるならいいよって言ってくれて。でも結局半年しかいなかったんです。
中川　半年しかいなかったっけ？あの思い出は長かったな。４万円の部屋をまず借りて、１ヶ月ほどたってもう１部屋借りたんですよ。それからリカちゃんの兄貴が入ってきて、手狭やいうことでもう１部屋お願いしたら２万円で貸してくれて。それで登が入ってきたり、いろいろ手伝で若い子が来てくれるようになって、もう１部屋をこんどは１万円で借りて。結局４部屋借りたんですよ。それからビルを壊すからっていうことになって。

リカ　またちょうどそのときね。
中川　阿倍野ソーホーっていう場所があるんですけど、阿倍野ソーホーアートプロジェクトっていうのをやってるんですよ、阿倍野をソーホーみたいにしようっていう。ファーストコレクションをやったゴルフ場があるんですけど、そこをアーティストに解放したり、阿倍野につぶれた民家がたくさんあるんですけど、そこを活性化しようっていうのでプロデューサーの吉川さんという人と不動産会社が組んでソーホーにしようって。そのプロデューサーの人が、阿倍野を活性化するためには、君達が来てスタジオをやったら若い人がたくさん来るようになるだろうって、力を貸してくださって。空いてる家から好きな所をスタジオに選びなさいって言っていただいて、あつかましくも商店街沿いの店が良いって言って。
リカ　そこが螺旋階段だったんですよ。私の小さいころからの夢で、螺旋階段の下がショップで上がスタジオっていう夢をずっと持ってたんですよ。**小学校くらいからデザイナーになりたくて、自分の人生をノートに書いてたんです。**
中川　そういうとこすごいですから。
リカ　２０才で何かに載るとかね、人生全部を決めてたんですよ。そのとおりに来てて、初めてのショップは螺旋階段って思ってたんです。そしたらたまたま最初に見に行ったとこが螺旋階段だったんです。もうこれやーって思ってね。
中川　つぶれた喫茶店のままだったんですけど、シャンデリアやミラーボールがあって、床はピンクの分厚いゴブランの絨毯がぶあーってひいてあって。
リカちゃんがこれやーって。
リカ　商店街沿いは高いからだめだって言われてたんですよ。でもどうしてもそこがよくって、不動産屋さんにいろいろ今までの資料を持っていって。特別にいいよっていうことになって。それが今の大阪の店なんです。
中川　そこでやっとまともな店とスタジオができて。上のスタジオで縫ってすぐ下で売って。
リカ　ジェネラル・ホスピタル（総合病院）っていうシリーズで古着のリメイクもやったし。
中川　阿倍野振興で保証金なしだったし、家賃もすごく安かったのですぐ移

HANS BELLMER COLLECTION　'92.11

って。それでそのお店にお客さんが来てくれるようになって。

FR　でも阿倍野じゃほっておいたらお客さんに知られないですよね。

中川　**ええ、最初は全然来ないです。**

御船　口コミですよね。最初はショップのスタッフに聞いたりとか、友達を連れて来てくれたりとかで。だんだん噂になってきて、おもろいとこあんでっていう感じで。クラブとか行くじゃないですか、おしゃれな子が集まってて、そこで知られたり。

FR　一時はブームっていうか噂になってて、**カリスマ的ブランド**になってたって聞きましたけど。

中川　そうですか？そういえばなんかやったな、ネームタグをバンバン変えてて。

リカ　そうそう、染めネーム作ったりとか、大っきなネームにしたりとか、細いのとか。

中川　わら半紙使ったりとか。あのころグランジの雰囲気を感じてたし。

リカ　染めた大きなネームとかはあんまり数を作ってなかったんですよ。結局5枚しかなかったりするもんだから、それを集めたりとかってあったみたいなんですよ。

中川　**うちの事情としてはピンチでやったことが、お客さんにとっては価値になってて。**

FR　限定商品みたいになったんですね。

中川　それはけっこうラッキーかなって。暇だったんで、そんなことをけっこう繰り返してたんですよ。こんなのおもしろいって考えたことが、手打ちうどんみたいに2階で作ってすぐ1階反応が見れるので。

リカ　私すぐ飽きるんですよ。大っきいネーム作ったらすぐなんかいややねん大きいのって。

中川　そういえばクラブでイベントやってました。ずいぶん人集めて。登とかが好きで、ミーティングしてみんなで遊べることしようって。ファッション大賞とかいって、おしゃれな子にはベリッシマで作った服をあげるよって。業界の人や若い子がけっこう来てくれて。さっきのプロデューサーの吉川さんがレストランやクラブとかを経営してたんですよ。その中にMOMAっていうクラブがあって、そこをまた安く貸してもらって。そのころよく誠一郎（御船）が来ててんな、お客さんで。賞とってんな。スキンヘッズにしてきて、白衣の後にサイボーグみたいなの付けてたな。

御船　ラジカセを背負えるようにして。

中川　音の出る服みたいなのを作って来たんですよ。

御船　とりあえず服が欲しかったんですよ。そのころお客さんだったんですけど。ここまで服作ったら頭をまるめるしまないなって剃ったんですよ。

リカ　みごと大賞をもらってんな。

FR　それは何回程やったんですか？

中川　大きいのは1回だけで、ショーを3回くらい、山下くんとやったり、他の人とやったり。クラブとは密着してよくやってました。ショップでもショーをやりました。

FR　ショーってモデルも必要だし、簡単にはできないですよね。

RED STRIPES ARMY '93.11

RED STRIPES ARMY '93.11

中川　そうですね。ヘアメイクも友達のヘアメイクの人にたのんで、Tシャツでやってもらって。

FR　Tシャツがギャラの代わりで？

中川　そうです。モデルの人もよくお店に来てくれてた人とかで、Tシャツでやってほしいって。

FR　いきなりイベントをやったりショーをやったり、自信があるっていうか、ずうずうしいですよね。（笑）

中川　ずうずうしいですね。とりあえずなんかやるの好きやし、やろかっていう感じで。

リカ　思い立ったら、すぐ行動って感じやもんね。

FR　最初から指向がメジャーですよね。

中川　あ、それ好きかもしれませんね。なんかね、リカちゃんもそうやねんな。オレといっしょにされたらいやがるけど。自分の実家が滋賀県で田舎もんやしかな。

FR　東京にいる方がステップとか段階とか考えちゃうのかもしれないですね。

中川　**ファッションゆうたらファッションショーや、って思ってましたから。**東京に来てから、大阪好きっていう感情以外に、なんとなく大阪の良いとこっていうか、システムみたいなもんの違いを感じますね。**人間って環境で変わるから、**システムのある所に入ってきてしまうと、わからなくなって、それが普通だってなるから、遠回りする場合もありますよね。こういうのを出したい、メッセージしたいっていう単純な気持からやって、それに市場が付いて来るっていうか、人が認めて共感して、そうやって拡がっていくものだから。

リカ　段階を踏むとか、そういうふうに考えたことなかったね。

中川　もしかしたら、東京にいたらオレもメーカーとか入ってデザイナーの人に付いてとか、あったかもしれませんね。（笑）

リカ　やってから考えるタイプやから。

中川　リカちゃんは特に多くないそういうの。

リカ　**みんなやる前に考えるでしょ、**考えてからやる。そうすると出来ないですよね。やってしまってから考える。

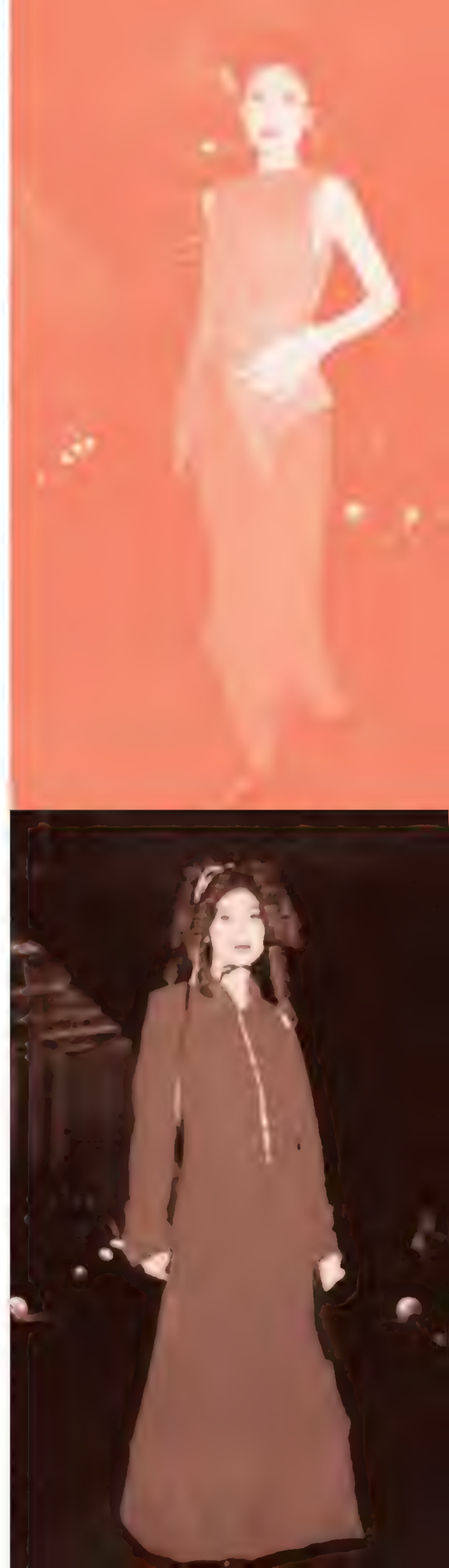
FR　フリーマーケットで服を売ってたのって、ベリッシマのころですか？

中川　阿倍野に移ってからも、やばかったよな。

リカ　うん。

中川　**家賃がやばいって、毎週行ってましたよ。**フリーマーケット協会の人と仲良くなって。

リカ　飲食の許可とって、たこやきを売ろうかっていう話にまでなったんですよ。**「焼そばやこか」とか。**

中川　ガーデンセットみたいなのを買

って、パラソル立て、パン突っ込んでドア開けて。
リカ　友達とかみんなで。
中川　連れのＤＪがブース持ってきてそこでやったり。ぼくらは安いＴシャツとか仕入れてきて、リメイクして。本町のころが一番よくやってましたね。それで稼いでたみたいなもんですよ。
リカ　２０万円くらい売上げるんですよ、１日に。
中川　けっこう本格的ですよ。
リカ　それでほんとうに助かってたんですよ。それで継ないでたんです。
ＦＲ　いくらくらいのものを売ってたんですか？
リカ　本町でＴシャツとかめっちゃ安いとこ知ってたから、韓国製の１００円くらいのＴシャツを仕入れて、洗えるペンで描いたり、切ったり、汚したりして。
中川　リボン付けたり、不滅インクでスタンプを押したり。家賃が払えないからやばいっていう頭があったから。
リカ　毎週行ってました。

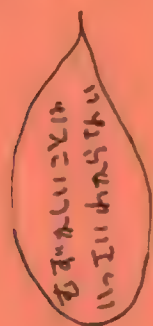
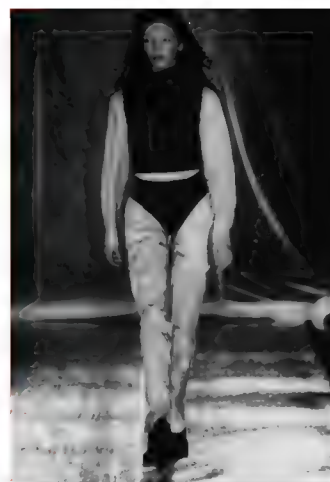
中川　その間に展示会をちょこちょこやって。一番最初のころは２人でお店を回ってましたよ。**僕が軽バンに乗ってたので、それにダンボール４個くらい載せて、**三重県とか名古屋とかばーって行って。でも、帰れってされて。まいったな、むかつくなって。**ほとんど相手してくれないですから。**
ＦＲ　へー、見てもくれない？
中川　見てはくれるんですけど。
リカ　なんか文句言うんですよ。
（笑）
リカ　すごい文句言われてね、もうめっちゃ腹立って、今に見とけよって感じでいつも帰ってました。
中川　でもまあ、何軒かは。
リカ　うん、すごく気に入ってくれてるところも1軒か2軒あって。生地屋でもこんな状態やったな。生地も売ってくれないんですよ。若いからって。
ＦＲ　ええ、うそ。
中川　信じられないですよ。生地屋ですよ、普通の。東京なら日暮里にあるような、本町どぶ池の、小売もやってる生地屋ですよ。それが売ってくれへんから、むかついたよな。リカちゃんいっぺんキレたよな。
リカ　**すっごい腹立ったからね、絶対いまに後悔しますよ、顔覚えといてくださいねっ！て。**

中川　エキサイティングやから。僕はまあけっこう「いいっすわ、いいっすわ」って。
リカ　横でニコニコ笑ってるんですよ、私はむっちゃ腹立つとか言ってすぐ怒ってけんかするねん。
中川　いまやってる工場の職人さんはめちゃめちゃいいおっちゃんで。
リカ　もうめっちゃ助かった。
中川　なにも生産能力のないときからやってくれてて。その人がいままでの残反が倉庫にあるから取りに来いって言ってくれて。そこに取りに行って全部もらって。６０年代くらいのミセスのへんてこな生地がいっぱいあって、これはいいって。芯もらって、それでめちゃ助かったよな。
リカ　最初にまとまったお金がないから、生地買うのがすごい大変で、洋服作れないですよね。それで生地をいっぱいもらえて、それで作れたからいけたようなもんです。

SLIP DOWN　'94.11

ＦＲ　そういうことに出会うには、いやな目にもいっぱい会わなきゃならないんですよね。
中川　断られたりするのは当り前やったから。
リカ　でも言うことがいちいちむかつくんですよ。「ムリムリこんな服」とか言うんですよ。なんか一言いわれるんですよ。そのたんびにやるぞって思ったんですよ。
ＦＲ　逆にバネになった。
リカ　そうなんですよ。

中川　それはあったな。国金（国民金融公庫）行ったたときもそうやったもんな。そのころ初めてお金を借りられるっていうことを知って。（笑）本町にいたころで、無担保・無保証で３００万円まで借りられるっていうんで、商工会議所で用紙をもらって。でも保証人を付けると５００万円までいけるって聞いて。さらに1ランク上で１０００万円を借りて、喰い継なぎながら返していけばいいわって。借りるなら多い方がええわとか言って、２人で盛り上がって。１０００万円って書いて持って行ったんですよ。そしたら色々言われて。「何を信じたらいいんですか、中川さん」って言われて。**「才能を信じてくれ」って、「それは無理です」だって。**（笑）
リカ　「１０００万円ってあなた」とか言われて。まだ始めて５ヶ月くらいしかたってなかったの。
中川　とりあえず多いほうがええやろって。単純やったな、３００万円借りて生地とか買ったらなくなるから、とりあえず１０００万円借りといて、まず５００万円返したらええんやって。
リカ　**とりあえず１０００万円いっとこいっとこって。**
中川　借りられることばっかり考えてて。よう考えたら全然借りられないんですわ。
ＦＲ　３００万円もだめだった？
リカ　全然だめ。とりあえず相手にされなかった。最初から１０００万円って書いたんがまずかった。
中川　そやな、あれで悪いイメージが付いて。

リカ　また2人ですっごい格好して行ったんですよ。
中川　いちおうジャケット着て行ったんですけどね、Ｇパンで。
リカ　でもビックリしてはったよ。
（笑）
リカ　**私そのころロリータだったんですよ。**こんなフレアーなスカートはいて行って、くるくるの髪にリボン付けて。
中川　思い出しました。リカちゃんめっちゃおもろかったんですよ。ロリータだったんですよ、昔。ベリッシマは

SLIP DOWN '94.11

その空気を伝えようみたいなブランドイメージだったんで。

リカ　いつもこんなチュールのスカートで。

中川　おぼえてる?新潟行ったとき。フォンテーヌさんっていうかつらの会社の人が協賛してくれはって、デザインしたカツラを作ってあげようって言ってくれて、盛り上がったんですよ。そのカツラを使って大阪コレクションをやってうまくいったんですよ。そして今度はフォンテーヌさんがショーをやるから手伝ってくれっていうことで、新潟に行ったんですよ。温泉街でそれはよかったんですけど。タクシーに乗ったんですよ、そしたらタクシーのおっちゃんに「演歌歌手の巡業か?」って言われて。「アイドルさんですか?あそこの宴会で歌わはるんですか?」とかってよく聞かれたんですよ。僕はマネージャーで。

リカ　いつもくるくるの縦ロールのウィッグにリボン付けて、ものすごい派手だったんですよ。中川はチンピラみたいなかっこしてるし。

中川　あれはおもしろかったですよ。(笑)

FR　お金借りられないと困りますよね。

リカ　そうなんですよ。結局1円も借りられなくて。なんでうまいこといったんかわからへんな。あのときはお金借りなあかんかったや。

中川　結局借りられるようになったのは、阿倍野の店をやってからで、3回借りに行って3回ともだめだったんです。いま明かせば御船が入ってからもやばいときがあってんな。やばかったんですよ。それでも借りられなかったんですよ。3回行ってだめで、もうだめなんやって思ってて。どうしようかなって思ってるときに、大阪コレクション協会でお世話になっている折目さんという人がいて、世間話でそんな話をしてると、「ほなオレが商工会議所に聞いたるわ」って言って下さって。それで借りられたんですよ。阿倍野商工会議所の岡安さんという人にも大変お世話になって。お店を初めてからは銀行とか来だしましたけど。

FR　お金を借りられるようになったと。

リカ　それからはそんなに窮地に立ってないので。

中川　最初のころ御船が入ったころまでがたいへんで。自炊してたもんな。

御船　そうですそうです。

中川　毎日料理大会で、当番が決まってるんですよ。専務が中華で、僕がスパゲッティ、どんぶりで。ごはん炊けたでって。

FR　最初はいじめられますよね、世の中に。

リカ　いじめられましたよ。すごく言われたりしたときは、あまりにも大人の理解が無いと思って。私は工場の人に助けられたから、そういうチャンスを若い子に作っていかなあかんってすっごい思いましたよ。若くてやっていくのにはすごくいっぱい壁がガンガンガンってあったんで、むかつくって思ったりして。

FR　でもずいぶん短い期間で大きくなりましたよね。

中川　そうですね。けっこう短い期間だったと思います。トライヴェンティやって3年。

FR　ベリッシマをやめてトライヴェンティに名前を変えただけ?

中川　ラインもけっこう変えて。だいぶ僕が出すようになって。

FR　名前を変えた理由はあったんですか?

中川　変えたかったというのと、商標権の問題もあって。

FR　ベリッシマってどういう意味なんですか?

リカ　美しいの最上級。

中川　イタリア語で、意味としては、あざけ笑うという意味があって。ずっこけた人を見て、ベリッシマって言ったりするんですよ。映画の「グランブルー」でも失敗した人を見てベリッシマって言ってたり。そのときヴィスコンティの映画の「ベリッシマ」が好きで、リカちゃんのロリータの世界と響きが合うんで。それで行っとこかって感じで。それでもうやめとこかって。

CONTINUE TO THE NEXT ISSUE

(連絡先)
20471120　03-3796-1082

テレビすきすきあなごちゃん

スカトロあなご

お、きたきた!!

やわらかうんちが出ている

ペロペロ

大切な栄養補給である…

うまい!

クチャクチャ

by-kojima

interview

三原康裕

ＦＲ　一番最初に作った靴はありますか？

三原　これが木型もなにも知らないで作った靴です。

ＦＲ　ミシン掛けとかはどうしたんですか？

三原　普通のミシンを使って縫ってます。

ＦＲ　底の部分はどうやって付けてるんですか？

三原　底の一番上の皮をアッパーに縫いつけて、それに底材をセメントで付けるんです。

三原　これは自分でフェルトして作った服なんですよ。

ＦＲ　どうやってつくるの？

三原　原毛をさくんです。引っかく器具があって、それを叩いて作るんです。

ＦＲ　学校で習うんですか？多摩美でしたっけ？

三原　４月で卒業しましたけど。染織デザイン布とデザインを勉強しました。

ＦＲ　マーク・ル・ビアンもゴフラン織から入ってるんですよ。。

ＦＲ　この靴の写真は自分で撮ったんですか？プリントからのカラーコピー？

三原　そうです。でもビックミニですよ。

ＦＲ　なんでもやりますね。

三原　この木型はロンドンのカムデンマーケットで買ったんです。つま先を切ったんですが、かなりいい木型です。もったいなかったんですけど。木型も自分で作んなくっちゃって思って勉強しました。

ＦＲ　靴の学校とかって行ってないんですよね。革とかも習ってないんですか。

三原　全く行ってないです。革は浅草で安いのを買って。

ＦＲ　靴の全体の構造とか知らないと出来ないことってあるでしょ。

三原　カカトとか材料とか最初はわからないままやりました。スニーカーとか見てると木型が必要だとか思わないじゃないですか。だから最初は木型もなしで作ってたんです。そのうち職人さんの所を訪ねたりして、やっぱ木型が必要なんだって思って。やっぱりいまだに木型なんだって。

三原　それで木型買わなきゃって。日本で買うと両足で７０００円程するんです。でもロンドンに行ったときにカムデンマーケットで９００円だったんで、いっぱい買ってきたんです。参考にして作ってます。

ＦＲ　靴を作ろうって思ったのはいつごろですか？

三原　靴はずっと好きで、スニーカーとかいっぱい買ってたんですよ。最初は服を作りたいっていう願望が強かったんですけど、僕には靴より服の方が難しいところがあって。靴がちゃんと作れるようになったら服も作れるんじゃないかって思って。そうやって作り始めたらそうはいかなくて、はまっちゃったんです。

FR　いきなり職人さんのところに聞きに行ったんですか？

三原　最初の1年くらいは友達とかとワイワイやってたんですよ。一番始めは日本の職人さんのところじゃなくて、ジョンムーアの靴を作ってるイアン・リードのところに行ったんです。でもそんなに簡単に教えてくれないじゃないですか。でもそこにいるダイタさんっていう人が教えてくれたんです。何も知らずに行った訳じゃなくていろいろ煮詰まってから行ったので、問題点が分かってたから、見せてもらったことで次のステップに移れたんです。

FR　煮詰まるまでは何で勉強したんですか、本とか？

三原　本もそうだけど、靴を壊したりとか。

FR　靴の学校とかあるじゃないですか。行ってみようとか思わなかったんですか？

三原　そのころ多摩美に行ってたんですが、靴の学校にも行ってみたいという気持ちも半分ありました。でもどんな学校でも、服の学校もそうだけど、テクニックしか教えてくれないと思って。技術的に身に付ける前の段階で、作る上でなぜこうしなきゃいけないのかっていう哲学が、自分でやって行かないと分かんないかなって思ってて。ヒールでカカトを上げたりとか、今じゃ当り前になってるけど、何でそうするのかなっていうところから入ったから。実際に作ってみて、ああやっぱりなって思って、そうやっていくのがいいかなって思ってたので。靴業界に入って色んな職人の話を聞きますよね、そういう話や難しいテクニックとかって、自分でやってみて自分が欲するようにならないと分かんないと思うんですよ。学校だと教えられるままに、こうやれって言われてやるっていう感じじゃないですか。たとえば服にチャックを付けるにしてもチャックの付け方を勉強するためにチャックを付けるっていう感じじゃないですか。この服にチャックを付けたいからチャックを勉強しないといけないっていう必要性がないと、入ってこないタイプなんですよ。靴を作ってて、何でここをこうしなきゃいけないのかって分かるまで時間がかかるから。必要性を感じないと、人に言われても、そのままいっちゃうから。必要なことと、自分には必要ない世界と分けられるから。色んな人に教えてもらった経験はあるけど、一方的にこうしろって、こうした方がいいって言われた場合には覚えないんですよ。

三原　母親が油絵の画家なので、小さい頃教えられてて、ここをこうしなさいって言われたこともあったけど、あまり分からなかった。

FR　お母さんが画家なんですか？

三原　ええ、売れてはいないけど、家でずっと描いてます。

FR　家ってどこですか？

三原　高校まで福岡なんです。なぜ東京に出て美術を勉強しようと思ったかというと、福岡だと限られるんです、会う人が。ファインアート寄りだったので、いろんな討論とかしたかったたし。多摩美とか芸大、ムサ美とかみんな美術が好きで集まって来るんだろうと思って。ピカソとかブラックとかが集まってたころのような、そんな世界を想像して東京に来たんです。福岡じゃ煮詰まってしまうし、東京じゃなきゃ会えない人っていっぱいいるじゃないですか。電話とかインターネットとかあるけど、そこに行って会わないとだめだと思うから。とにかく東京に行こうって、何か勉強したいなと思って、多摩美にしたんです。でも実際はそんなんじゃなかったんですけど。こんな感じなのかと思っていたら、だんだん回りに同世代のカメラマンやイラストレーターがいるようになってきて。自分はなにが好きなんだろうって思ったとき、音楽でもないし、ファインアートでもないし、テキスタイルデザインでもないなって、そしたら靴になちゃったっていう感じです。

三原　でも最初は服を作ろうって思ってたんですよ。そのころパリコレの時期に初めてヨーロッパに行ったんです。パリコレの会場の入口で、インビテーションをもらって入ったりしてたんですよ。シャネルのときにインビテーション下さいって怒られながらやってたら、横にいたのが今20471120をやってる中川さんて。そのころはべリッシマていうブランドをやっていて、ファーストコレクションが終わったば

最初に作った靴。まだカカトはない。

自宅で撮影

かりで。僕はなにも知らなくて、入れないですねとか言ってて。そのあとでループルの中のハンバーガーショップに入ったら、そこに中川さんがいたんです。僕もファッションが好きだっていう話をしたら、どういう服が好きなのかってことになって。僕はハウス・オブ・ビューティ・カルチャーに影響されたから、ネメスとかジョン・ムーアってすごいなって思っちゃうんですよって話してて。そんな話をしていたら「早く決めたほうがいいよ」って言われて。あっと思って。

FR　へー。中川さんらしいですね。

三原　それで日本に帰ってすぐにミシンを買って、布を縫ってみることから始めたんですよ。ミシンも調整しなきゃ縫えないっていうことも知らないで、どうして縫えないんだろうっていうところから入ったんですよ。パターンを引いて、切って。中川さんが簡単に「プラモデル作るのといっしょだよ」って言っていたのを思い出して作ってみても、あまりうまく行かなくて。なんか靴を作れたら服を作るのが頭の中で簡単になるかなと思ったんですよ。そこから靴を作るようになったんです。

中学の終わりから高校の始めにかけてビューティ&カルチャーのああいう雰囲気ってすごい好きだったんですよ。卒業しなきゃって思ってるんですけど、やっぱり身体の中に入ってて。あれが服やファインアートやグラフィックとかいろいろな分野に影響を与えたじゃないですか。カルチャーでファッションを考える。そういう考え方ってすごく好きで、日本はまだこういったクロスオーバーがないし、文化としてファッションを捉えないし。英和事典でFASHIONを引くと始めに流行って書いてあって、それがまずいやなんですよ。トータルで文化として進んでいけないかって。日本は経済大国だから、お金が武器のようでファッションでもすぐにお金で計算しちゃうと思うんです。ピカソの絵が何億円だとか、高い低いで決まっちゃって。お金のない国は、文化が逆に武器のようなもので、たとえばベルギーのアカデミーオブファインアートのようにほとんど無料で教育したり、文化に対しての育て方や力の入れ方、またファッションとかアートへの文化としての捉え方、腰の据え方が違うと思います。そう考えてると、自分の中でメラメラくるものがあるんですよ。変えたいって。一人の力じゃできるどうかか分からないけど、そういうことが認められるようにしたいって。アンダーグラウンドに行く気はないんです、メジャーに行かないと認めてくれないということも理解できるし。好きな事をやり続けたいので。

FR　最近の若い子、高校生とかって、いい線いってますよね。

三原　どん欲ですよね。人を頼ってな

いファッションだと思うし、今までは供給される側だったじゃないですか。消費者。でも若い子たちも全然バカじゃないからお金で買うファッションっていう感じじゃなくなってきてます。自分が好きだって思ったその感情を、自分でどう表現するかってことになってるし。カメラを持って歩いてる女の子が増えてるのもおもしろいと思います。ヨーロッパの友達にその話をすると「日本人は昔からカメラ持ってるよ」って言うんだけど。そういうのじゃなくってって言うんだけど。いいと思いますよ。日記を付けてるとか、自分の表現を考えてて。人とのコミュニケーションとる手段が僕の場合は靴だっていうことなんですけど。コミュニケーションをとる手段として言葉とかボディランゲージじゃなくって、ひとつフィルターを通して伝えるっていう意識ができてきてると思います。音楽に対してもファッションに対してもすごくどん欲だし、少し前までは服を知らない子がたくさんいたけど、今はそうでもないと思います。

ＦＲ　手作りでやっていた時と、工場に出すようになってからとだいぶ違いますか？

三原　やっぱり違いますね。一人で作っているときには気持も楽なんですよ、プレッシャーがないし。工場に出すようになるとコミュニケーションが必要になるので、そうなると知識も必要になるし、ディテールまで指示をしなきゃいけない。逆に職人さんの提案も大事に聞かなくてはと思うし。一人の作業じゃなくって複数の、たとえば４０人程の作業になる場合もあるし。革屋さんから縫製の人、底材を作る人とかみんな合わせたらすごい人数になるじゃないですか。だからトラブルは常に起きます。途中で革が代わってたりとか。革がなくなったから同じ色の革ならいいやってやられちゃう。よくあることみたいで、僕も１回あってびっくりしたんです。同じ革で同じシボがあって色が同じでも微妙な光沢とかで靴にしたときにすごく差が出るんですよ。なんやこれはっていうときがあるから。

ＦＲ　工場に出すようになったのは勤めだしてから？

三原　そうです。靴をつくるのはお金がかかるけど、何百万か借金をしてでも作りたいと思ってて。工場に電話をかけまくって「製造してもらいたいんですけど」って。靴の修理屋さんに工場を教えてもらったり。有名な工場にはぜんぶ電話してますよ。そのころあるお店で働いている友達がいて、彼も靴がすごく好きでよく靴の話をしてたんです。その彼の店でクガコージの靴を仕入れていて、いっぺん会ってみればということになって。こういう靴を作りたいっていうブックと現物を持って会いに行ったんですよ。そのときに、とりあえず飛び込んでみないとこの業界は分からないからって言われて、そこで働くことにしたんです。働きだして始めて分かってきたことが色々あります。靴を作ることは職人さんとの共同作業だし、一人の力ではどうにもならない事も、力を合わせていけば、解答が必ず見つかるんです。自分一人では出来ない事を頼むので、常に相手を尊敬しなければいいものが作れないですし。いつもお世話になっている人々がいて、今の自分がいるんだなって。

ＦＲ　今後いろいろ展開しそうですね。楽しみにしてます。

（連絡先）
ｉｖｏｌ　０３－３８４７－０７５３

つま先を切った木型で作った靴

YASUHIRO MIHARA NEW COLLECTION

シューズ：ポップ フェーリー
ファッションのポイント：かさね着？
美容室：フレーム（恵比寿）
18才、専門学校

ジャケット：20471120
Tシャツ：20471120
パンツ：20471120
シューズ：20471120
バッグ：20471120
ファッションのポイント：ひょうがら
美容室：DADA
20才、モデル

上着：ゴム
パンツ：YAT
シューズ：コンバース
ファッションのポイント：オールバック
美容室：ラピアン
19才、専門学校生

ブラウス：ガブリエル
スカート：20471120
シュース：コーシクカ
イ：20471120

つなぎのこしまき

シャツ：ヴィヴィアン ウェストウッド
パンツ：コム デ ギャルソン
マサキ マツシマ
アクセサリー：手作り
帽子：古着
ファッションのポイント：パジャマ
美容室：MINX
20才、美容師

Tシャツ：ヴィヴィアン ウエストウッド
パンツ：UKのリーバイス
シューズ：ROBOT
ファッションのポイント：エッチなTシャツ
美容室：SHIMA代官山
17才、高校生

カーディガン：ヴィヴィアン ウエストウッド
ブラウス：自作
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：BELLY BUTTON
バック：2047[illegible]
ファッションの[illegible]
美容室：自分で切った
17才、高校生

ブラウス：20471120
パンツ：20471120
シューズ：[illegible]
バック：20471120
ファッションのポイント：パンツを折ったこと
美容室：ミラクルコントロール
18才、専門学校

上着：自作
Tシャツ：マーク ルビアン
スカート：J.P.ゴルチエ
シューズ：せった（高円寺で買った）
メガネ：J.P.ゴルチエ
美容室：VOLUME
18才、専門学校

ブラウス：クリストフ ルメール
パンツ：ジル スチュアート
シューズ：パラノイア
バッグ：プラダ（友達の）
ファッションのポイント：さわやか
美容室：ACQUA
18才、専門学校

ャツ：古着
パンツ：リーバイス501
くつ：MTCのワークブーツ
ファッションのポイント：モッズ＆パンク
美容室：Ciao Bambina
19才、フリー（モデル）

BELLY BUTTON
19才、専門学校生

Tシャツ：W<
パンツ：古着
シューズ：ぞうり（お父さんの）
ファッションのポイント：ぞうりと羽のピアス
18才、専門学校生

シャツ：古着（シカゴ）
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：ダーク ビッケンバーグ
帽子：20471120
ネクタイ：20471120
ファッションのポイント：帽子とネクタイ
美容室：MINX下北沢
19才、美容師インターン

ブラウス：古着（シカゴ）
スカート：古着
シューズ：PREGO（TOPS）
バック：W<
ファッションのポイント：2人でオソロイ
美容室：ACQUA
19才、美容師インターン

シャツ：古着
パンツ：古着
シューズ：コンバース オールスター
アクセサリー：代官山ジプシーで
ファッションのポイント：ゴアっぽく
美容室：彼女にやってもらった
19才、専門学校生

ワンピース：[illegible]
くつ：BELLY BUTTON
バック：自作
かつらも自作
ファッションのポイント：トラ
美容室：2030で作らせてもらった
19才、専門学校生

ジャケット：古着
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：ゲッタ グリップ
[illegible]
[illegible]

ジャケット：ミルクボーイ
パンツ：古着
シューズ：UNDERGROUND
[illegible]
[illegible]

スカート：ツモリ チサト
ファッションのポイント：カウガール
美容室：STEP橋本店
19才 学生

コート：古着
パンツ：R.ニューボルド
シューズ：Dr.マーチン
ファッションのポイント：地味に
美容室：TAYA

[illegible]：マサキ マツシマ
シャツ：J.P.ゴルチエ
パンツ：マサキ マツシマ
シューズ：ダークビッケンバーグ
アクセサリー：ヴィヴィアン ウェストウッド
ファッションのポイント：アクセサリー
美容室：ガールラブズボーイ
19才、会社員

上着：ナイスクラップ
Tシャツ：BA-TSU
スカート：手作り
バック：ビバユー
ファッションのポイント：日本
美容室：自分
14才　中学生

上着：不明
シャツ：J.P.ゴルチエ
バック：J.P.ゴルチエ
ファッションのポイント：オタクファッション
美容室：ボーイ
20才、専門学校

シャツ：コム デ ギャルソン
パンツ：アンダーカバー
シューズ：コンバース
ファッションのポイント：てきとうに着てきた
美容室：SHIMA原宿店
19才、専門学校

ジャケット：自分でリメイク
セーター：ツモリ チサト
パンツ：20471120
くつ：20471120
バック：J.P.ゴルチエ
ファッションのポイント：何となく
美容室：春日部の"HERS"
16才　高校生

ジャケット：西海岸
シューズ：20471120
くつ：TOKYO BOPPER
ファッションのポイント：半ズボン
美容室：近所で
16才　高校生
ジャケットのボタンの位置を変えてウエストをしぼった。

ベスト：古着
シャツ：古着
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：コージ クガ
バック：ミルクボーイ
ファッションのポイント：ネクタイ
美容室：GIRS LOVES BOY
18才、専門学生

STREET

next issue 'New York'

28th 6 on sale

480yen

セーター：ヴィヴィアン ウェストウッド
スカート：ビューティービースト
シューズ：ビューティービースト
アクセサリー：ビューティービースト
ファッションのポイント：チェックのスカート
美容室：ダブ
17才、高校生

FRUiTS

今回の取材は、3月位から始めているので、まだ冬っぽい人もいます。

ファッションに関すること、
人生に関すること、
相談事募集

各地名産品募集

次号予告
7月23日発売予定。
原宿フリースタイル
20471120 インタビュー part.2
etc.

ご意見、ご感想の手紙
募集

こんなものが流行ってるとか、
こんなことに凝ってるとか、
これが面白いよとか、
今これに注目とか、
ニュース募集

こんなページを作ってほしい
こんな企画をしてほしい
募集

大阪では何やら面白い動きがあるらしい。
梅雨があけたら 大阪行きます
大阪情報募集

EDIT: Noriko KOJIMA
編集発行人・青木正一
発行所・ストリート編集室
東京都渋谷区恵比寿西1-16-8-5F 〒150
Tel.(03)3463-2190 Fax.(03)3463-2191
THE STREET EDITORIAL OFFICE
1-16-8-5F, EBISU-NISHI, SHIBUYA-KU, TOKYO, JAPAN